

# 荒尾干潟のアサリ ～質量と大きさの関係～

熊本県立荒尾高等学校 3年 釜田 奈未子・田中 理紗・橋本 和佳奈

## 1 研究の目的

私たちは、2012年7月3日にラムサール条約に登録された荒尾干潟の生態系について興味を持った。この条約は、おもに水鳥の生息地として国際的に重要である。生物多様性に重要な湿地を世界各国が保全し、湿地の恵みを賢明に利用することを目的としている。地域の湿地を保全することは地球上の生態系を支え、生きやすい環境を保全することにも繋がっている。そこで身近にいる生物を研究できないかと考え、荒尾干潟で取れるアサリについて調べることにした。

## 2 研究の方法

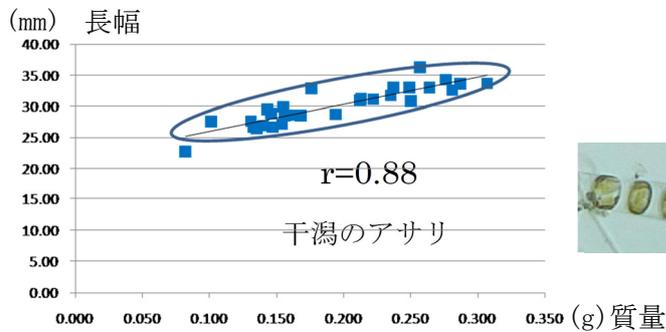
アサリの餌の調査を行った。満潮時は、荒尾干潟の堤防から、干潮時はタイドプールからプランクトンネットで、生物を採取した。

アサリとシオフキを茹で、身と殻に分け約3日間干し、電子天秤とデジタルノギスで身の質量、殻の質量、長幅、短幅、厚みをそれぞれ計測した。



## 3 結果

濾過食性のアサリが食べるプランクトンは、満潮のときの海水やタイドプールの海水をプランクトンネットで濾しとり、プランクトンを採取することができた。



殻の長幅と身の質量の相関を調べたところ、強い正の相関があるとわかった。特に、干潟のアサリが、最も相関が高かった。

## 4 考察

荒尾干潟のアサリの貝殻の大きさと身の質量との相関係数がどの項目においても高く、見た目通りの中身であることに対して、シオフキは砂を吐く事ができないため、採取時の砂により高い相関が見られないと考えた。

一方で、スーパーのアサリや砂抜き三日後アサリは、数日間飼育している間に、健全ではられないものが混じるので、貝殻の大きさと身の質量との相関係数が下がったのではないかと考えた。